



<市町村探訪2>

「景観まちづくり学習」～桜川市立羽黒小学校の取り組み～

【はじめに】

平成19年6月～7月にかけて、桜川市立羽黒小学校において、景観まちづくり学習のモデルプログラムを実施いたしました。

景観まちづくり学習のモデルプログラムとは、国土交通省が文部科学省の協力を得て、景観に関する意識の啓発、知識の普及を目的に作成したものです。

【景観まちづくり学習実施の経緯】

本年度、国土交通省都市・地域整備局都市計画課景観室にて、景観まちづくり学習の推進のためモデルプログラム（題材）の検証を行う実践モデル校の募集がありました。

桜川市では、日本一きれいなまちづくりを目指し、景観づくり政策を推進しているところであり、本校としても景観に関する学習には取り組みたいと考えておりました。

そこで、景観まちづくり学習の推進のための実践モデル校に応募し、選定を受け、景観まちづくり学習のモデルプログラムを実施することになりました。

本事業のモデル校は、意欲の高い小学校が全国で18校選定され、茨城県では、本校と行方市立羽生小学校が選定されました。

【こんな授業をやりました】

本校では、3年生から6年生まで4つの景観まちづくり学習のモデルプログラムを実施しました。

3年生：地域カルタをつくろう

4年生：こんなまちが好き！

～塀もまちの景観の一部～

5年生：わたしたちの住むまち こんなまち
～校歌の風景を読む～

6年生：地域景観プランナーになろう



【3年生の取り組みの成果 地域カルタ】



【4年生 地域に出向いての取材】



とくに、3・4年生では、モデル授業を円滑に進めていくために、まちづくりアドバイザーの秋山昌範先生を講師として、景観まちづくりの基本的な学習に関する講義をしていただきました。

講義では、景観ということばを、景色や風景といった身近なことばに置き換え、景色によって人はどんな気持ちになるのかなど話していただきました。また、絵や写真などを用いて、わかりやすく説明していただきました。



【まちづくりアドバイザーによる授業風景①】



【まちづくりアドバイザーによる授業風景②】

子どもたちは、わかりやすく楽しかった。いろいろな写真を見て、おもしろかったなどの感想を持ち、子どもたちが引き込まれ、景観まちづくり学習に対する意欲や興味も高まった講義でした。

～まちづくりアドバイザー 秋山 昌範 先生のめあて～

・3学年の講義

小学3年生の生活行動範囲は決して広いものではありませんが、毎日の登下校や地域での生活の中で、既に多くの地域性に触れています。このことに気付き、身近な風景を見直してもらうことで、一人ひとりが「自分達のまちはこんなまち」という認識を持ってもらうことを目指しました。

具体的には、いろいろな風景画を見てもらい、その絵にどんな印象を持ったか、それはどうしてか、自分も同じような風景の中にいたことがあるか、など、各自の経験やイメージを重ねて風景を見る体験をしてもらいました。

・4学年の講義

塀は個人と公共の境にあるもので、景観がもつ公共性と、個人の価値観や表現の自由、保安機能などの要素を多く含んでおり、「地域で景観を共有する」ことを考えるには大変良いテーマです。

先生が先行取材した映像を見ながら「わたしたちの身近にある塀」をあらためて見直し、塀の種類の高さや景観として見たときの印象について考えました。その後、日本各地の伝統的な町並みの塀の造りを写真で見ながら、地域の気候風土や産業と関わった塀のある風景を解説し、自分達のまちならどんな塀がふさわしいのか考えてみることを提案しました。